

10/100 EtherJet CardBus アダプター



導入と計画の手引き

OPTIONS
by IBM

10/100 EtherJet CardBus アダプター



導入と計画の手引き

注

本書の情報および本書によりサポートされる製品をご使用になる前に、37ページの『付録C. 特記事項』を必ずお読みください。

本マニュアルについてご意見やご感想がありましたら

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.infocor.co.jp/ifc/books/>

をご覧ください。(URL は、変更になる場合があります)

原典： 10/100 EtherJet CardBus Adapter
Installation and Planning Guide

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 1999.8

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 1998, 1999. All rights reserved.

Translation: © Copyright IBM Japan 1999

目次



安全に正しくお使いいただくために	v	NT 4.0 への導入	16
絵表示について	v	カード・サービス / ソケット・サービスを 使用して NT 4.0 に導入する場合	17
本書について	ix	カード・サービス / ソケット・サービス のない NT 4.0 に導入する場合	17
本書の対象読者	ix	NT 3.51 への導入	18
本書の編成	ix	NT 3.51 からの CardBus アダプターの除去	19
追加情報	ix	Windows NT ドライバー・パラメーター	19
第1章 ハードウェアの導入	1	第4章 診断および問題判別	23
HELPDOCS.HLP の表示	1	追加の情報源	23
ハードウェアの導入を行う前に	2	LED インディケーター	23
その他の必要な機器の確認	2	診断自己テスト	24
システム要件の決定	3	MS-DOS/Windows 3.x 診断プログラム (IBMCTEST.EXE) の実行	24
ハードウェアの取り付け	4	メイン画面	25
EtherJet CardBus アダプターの挿入	4	Windows 95、98、および NT の診断プロ グラム (EJETDIAG.EXE) の実行	25
LAN アダプター・ケーブルとカードの接続	5	問題判別チェックリスト	26
ネットワーク・ケーブルと LAN アダプ ター・ケーブルの接続	6	キーワード一覧 (すべてのドライバー)	27
省電力モード	6	付録A. 製品サポート・サービス	33
第2章 Windows 95 および Windows 98 へ の導入	7	ヘルプ・ファイル	33
プラグ・アンド・プレイ導入	7	IBM 製品サポート	33
使用するドライバー	7	付録B. 仕様	35
ソフトウェア導入ディスクットの作成方法	7	一般仕様	35
Windows 95 および Windows 98 への導入	8	イーサネットの仕様	35
Windows 95 および Windows 98 の問題判別	10	付録C. 特記事項	37
Windows 95 バージョン 950b (OSR2) 以降 での手動による導入	10	情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) 表示	37
Windows 95/98 ドライバー・パラメーター	12	商標	38
第3章 Windows NT への導入	15	索引	39
使用するドライバー	15		
カード・サービス / ソケット・サービス・ソ フトウェア	15		
どのドライバーを使用するか	16		

安全に正しくお使いいただくために

この製品を安全に正しくお使いいただくために、このマニュアルには安全表示が記述されています。このマニュアルを保管して、必要に応じて参照してください。

絵表示について

あなたとあなたの周りの人々の危害および財産への損害を未然に防止するために、このマニュアルおよびこの製品の安全表示では、以下の絵を表示しています。

 危険	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性がある危険が存在する内容を示しています。
 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容または物的損害の発生が想定される内容を示しています。

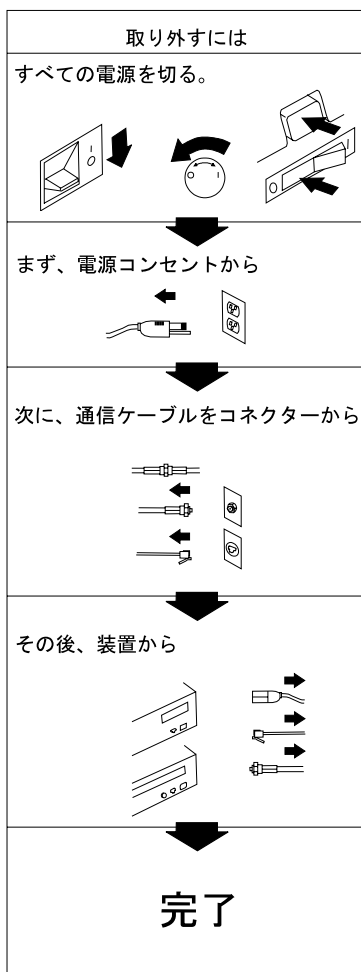
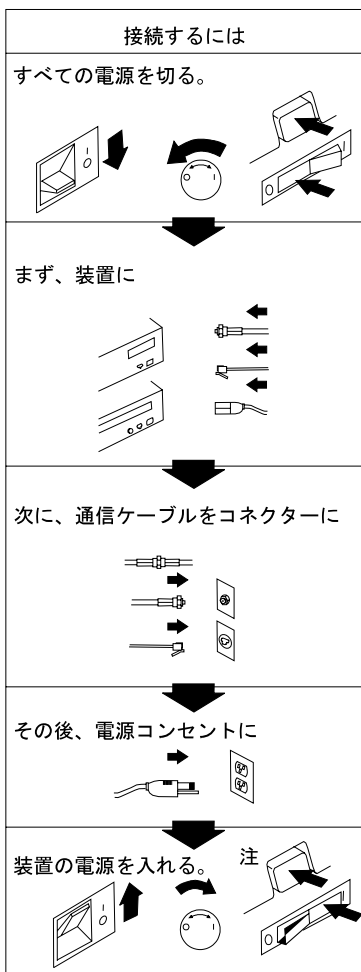
危険

- この製品を改造しないでください。火災、感電のおそれがあります。
- この製品の構成に電話ケーブル接続、通信ケーブル接続が含まれている場合、付近に雷が発生しているときは、それらのケーブルに触れないようにしてください。
- 電源プラグをコンセントに接続する前に、コンセントが正しく接地されており、正しい電圧であることを確認してください。
- 万一、発熱していたり、煙が出ている、へんな臭いがするなどの異常状態のまま使用すると、火災、感電のおそれがあります。すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから必ず抜いて、販売店または保守サービス会社にご連絡ください。
- 万一、異物（金属片、水、液体）が製品の内部に入ったときは、すぐにシステム・ユニットの電源を切り、電源プラグをコンセントから必ず抜いて、販売店または保守サービス会社にご連絡ください。そのまま使用すると火災、感電のおそれがあります。

⚠ 危険

- ケーブル類の取り付け、取り外し順序。

電源コード、電話ケーブル、および通信ケーブルからの電流は身体に危険を及ぼします。装置を設置、移動、または接続するときには、以下のようにケーブルの接続および取り外しを行ってください。また、電話回線、通信回線またはテレビのアンテナ線が接続されている製品は、雷の発生時には回線の接続または取り外しをしないでください。



注意

- 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。(必ずプラグを持って抜いてください。)
- 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災、感電の原因となることがあります。
- 長時間使用しないときは、電源プラグを AC コンセントから抜いてください。

本書について

本書は、Microsoft Windows 95、Windows 98、および Windows NT 環境に 10/100 EtherJet CardBus アダプターを導入し、構成する方法を説明し、診断および問題判別に関する一般情報を提供しています。

本書の対象読者

本書は、EtherJet CardBus アダプターのエンド・ユーザーおよびネットワーク管理者を対象にしています。

本書の編成

本書は、次の章と付録で構成されています。

- 1ページの『第1章 ハードウェアの導入』では、必要な機器やシステム要件を示し、ハードウェアの導入手順を説明しています。
- 7ページの『第2章 Windows 95 および Windows 98 への導入』では、Windows 95 用に提供されるドライバについて説明しています。
- 15ページの『第3章 Windows NT への導入』では、Windows NT 用に提供されるドライバについて説明しています。
- 23ページの『第4章 診断および問題判別』には、EtherJet CardBus アダプターの診断および問題判別に関する補足情報が収められています。
- 33ページの『付録A. 製品サポート・サービス』には、EtherJet CardBus アダプターのために利用可能なサービスの一覧が示されています。
- 35ページの『付録B. 仕様』には、EtherJet CardBus アダプターの一般仕様および物理仕様が示されています。
- 37ページの『付録C. 特記事項』には、EtherJet CardBus アダプターに関連した特記事項が記載されています。

追加情報

IBM OS/2、32 ビット ODI ドライバ、および Windows 3.x に関する情報と Windows 95 の補足情報は、IBM CD-ROM またはディスク上の Windows ヘルプ・ファイル **HELPDOCS.HLP** および **README.TXT** を参照してください。

ソフトウェアの更新および問題判別に関する情報は、IBM Web サイトから入手できます。

US サイト:

<http://www.networking.ibm.com/support/ejetcardbus>

日本サイト:

<http://www.jp.ibm.com/pccsvc/other.html>

第1章 ハードウェアの導入

この章の手順に従って、10/100 EtherJet CardBus アダプターを取り付け、ネットワーク・ケーブルを配線してください。その後で、ご使用のオペレーティング・システム環境に該当する章に進み、ソフトウェアの導入を行ってください。

- 7ページの『第2章 Windows 95 および Windows 98 への導入』
- 15ページの『第3章 Windows NT への導入』
- 23ページの『第4章 診断および問題判別』

EtherJet CardBus アダプターは、1 本のアダプター・ケーブルで 10 Mbps と 100 Mbps の両方のネットワークにアクセスでき、自動的に判別して、ネットワーク速度を 10 Mbps か 100 Mbps のいずれかに設定します。

注::

1. コンピューターによっては、CardBus アダプターを使用できるようにするために、システム設定や BIOS の設定をすることが必要になる場合があります。構成情報については、ご使用のコンピューターのマニュアルを参照してください。
2. 100 Mbps を使用する場合は、カテゴリ 5 の UTP ケーブルが必要です。10 Mbps を使用する場合は、カテゴリ 3 または 5 の UTP ケーブルが必要です。

HELPDOCS.HLP の表示

Windows 3.x、IBM OS/2、および 32 ビット ODI の導入や問題判別に関する情報、およびその他のオペレーティング・システムの補足情報については、IBM CD-ROM またはディスク上の Windows ヘルプ・ファイルをご覧ください。

HELPDOCS.HLP ファイルは、次のいずれかの方法で IBM CD-ROM またはディスクから表示できます。

- Windows 95、Windows 98、Windows NT の場合
 1. 「**Helpdocs**」アイコンを選択します。
- Windows 3.x の場合
 1. 「プログラム マネージャ」から「**ファイル**」をクリックします。
 2. 「**ファイル名を指定して実行**」をクリックします。

3. 「ファイル名を指定して実行」ウィンドウに `path\helpdocs.hlp` と入力します。ただし、`path` は、IBM CD-ROM またはディスクが入っているドライブです。
 4. 「了解」をクリックすると、ヘルプ・ファイルが表示されます。
- OS/2 の場合
 1. 「OS/2 システム」アイコンをクリックします。
 2. 「コマンド・プロンプト」アイコンをクリックします。
 3. 「Win-OS/2 全画面」アイコンまたは「Windows/3.1」アイコンをクリックします。これで、Windows の「プログラム マネージャ」がオープンします。
 4. 「プログラム マネージャ」から「ファイル」をクリックします。
 5. 「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
 6. 「ファイル名を指定して実行」ウィンドウに `path\helpdocs.hlp` と入力します。ただし、`path` は、IBM CD-ROM またはディスクが入っているドライブです。
 7. 「了解」をクリックすると、ヘルプ・ファイルが表示されます。

ハードウェアの導入を行う前に

パッケージの中に、本書の他に、次の品目が入っていることを確認してください。

- EtherJet CardBus アダプター
 - LAN アダプター・ケーブル (一方の端に 16 ピン PC カード・コネクタ、他方の端にメス RJ-45 コネクタが付いています)
 - CD-ROM またはディスクに収められたソフトウェアおよび導入と計画の手引き (本書)
 - *CAUTION: Safety Information - Read This First* の冊子
- 欠落したり、損傷している品目がある場合は、購入店に連絡してください。

その他の必要な機器の確認

EtherJet CardBus アダプターを導入するためには、次の機器が必要です。

1. CardBus PC カード・スロットのあるポータブル PC。
2. 10 Mbps または 100 Mbps イーサネットをサポートするローカル・エリア・ネットワーク、および EtherJet CardBus アダプターがサポートするネットワーク・オペレーティング・システム。

注: EtherJet CardBus アダプターは、接続されたネットワークの速度を自動的に検出するので、100BASE-TX または 10BASE-T ネットワーク (下記の 3 項と 4 項で指定) に安全に接続できます。

3. 100BASE-TX 100-Mbps イーサネット・ネットワークに接続する場合、100 Mbps ハブまたはスイッチに接続するためのオス RJ-45 コネクタが付いている**カテゴリ 5** UTP ケーブル
4. 10BASE-T イーサネットに接続する場合、10 Mbps ハブまたはスイッチに接続するためのオス RJ-45 コネクタが付いているネットワーク・ケーブル。

システム要件の決定

EtherJet CardBus アダプター・ハードウェアの導入時には、コンピューターの電源がオンになっており、標準オペレーティング・システムがロードされていることが必要です。自動検出するように構成されている場合、システムは EtherJet CardBus アダプターを検出します。ドライバー・ソフトウェアの詳しい導入方法は、ご使用のオペレーティング・システム環境に該当する章を参照してください。

注: EtherJet CardBus アダプター・ハードウェアは、CardBus テクノロジーをサポートするタイプ II および III PC カード・スロットに適合します。取り付け、取り外しの手順は、コンピューターによって異なることがあります。

ハードウェアの取り付け

EtherJet CardBus アダプターの取り付けは、次の手順で行います。

EtherJet CardBus アダプターの挿入

1. EtherJet CardBus アダプターの両側を持ち、IBM のラベルを上に向け、▶ 印の方向を PC カード・コネクタをスロット側に向けます。
2. カードを CardBus スロットに挿入し、確実に装着されるまで押し込みます。

注: EtherJet CardBus アダプターは、CardBus 規格の PC カード・スロットにしか使用できません。

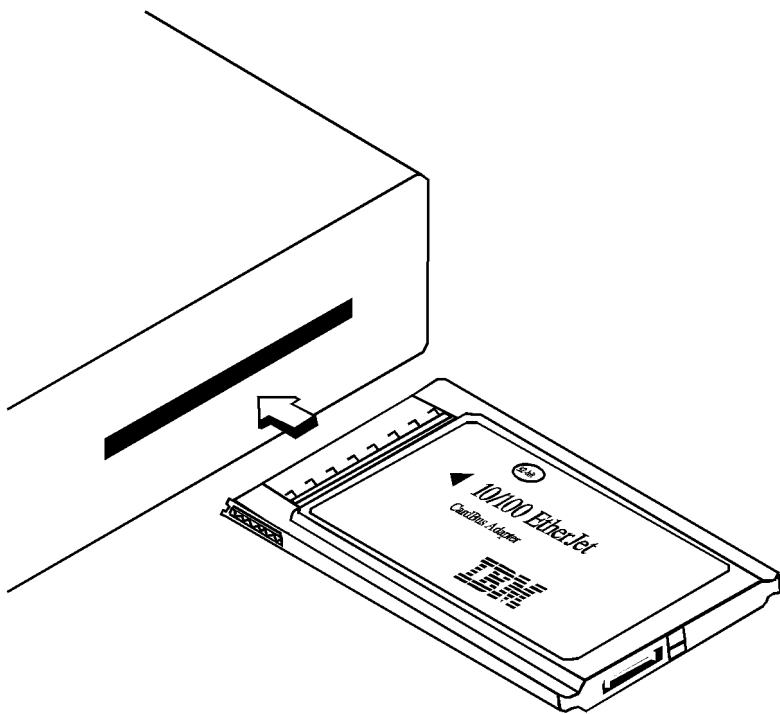


図 1. EtherJet CardBus アダプターのコンピューターへの挿入

LAN アダプター・ケーブルとカードの接続

IBM アダプター・ケーブル端の 16 ピン・コネクタを、EtherJet CardBus アダプター端の対応するコネクタに接続します。ケーブル・コネクタをカードのコネクタに静かに押し込み、確実に接続します。接続するときは、無理な力を加えないようにしてください。

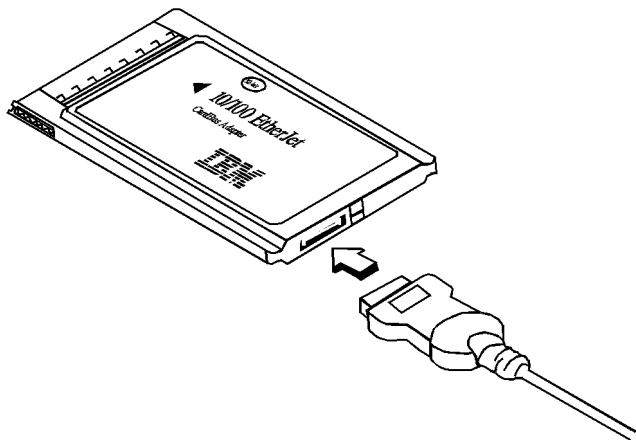


図2. LAN アダプター・ケーブルと EtherJet CardBus アダプターの接続

ネットワーク・ケーブルと LAN アダプター・ケーブルの接続

図3 に示すように、ネットワーク・ケーブルを LAN アダプター・ケーブルのメス RJ-45 コネクターに接続します。

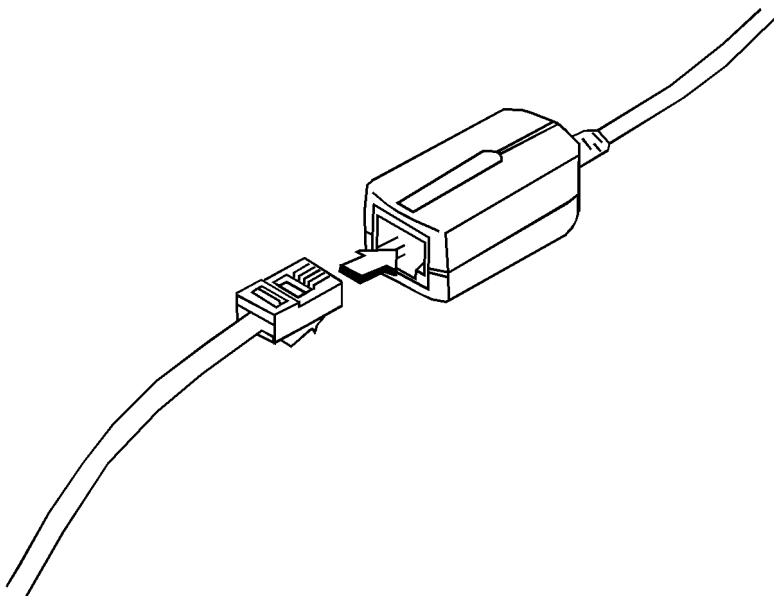


図3. ネットワーク・ケーブルと LAN アダプター・ケーブルの接続

省電力モード

EtherJet CardBus アダプターは、低消費電力に設計され、コンピューターのバッテリーの消耗を最小限にしています。 EtherJet CardBus アダプターは、LAN ケーブルの取り外しや取り付けを自動的に検出し、それに応じて省電力モードに移行します。こうしてバッテリーの寿命をのばしています。

第2章 Windows 95 および Windows 98 への導入

プラグ・アンド・プレイ導入

CardBus 対応のコンピューターは、ほとんどが Windows 95 および Windows 98 環境での EtherJet CardBus アダプターのプラグ・アンド・プレイ導入をサポートしていますが、Windows 95 の初期のバージョン (950 または 950a) は、CardBus をサポートしません。したがってポイントインネーブラを使用した導入が必要です。この章では、両方のタイプの導入方法について説明します。また問題判別やキーワード情報も提供します。

使用するドライバー

EtherJet CardBus アダプターには、Windows 95 および 98 用の次のドライバーが付属しています。

- NDIS3 ドライバー (IBMC.SYS)
- NDIS4 ドライバー (IBMCN4.SYS)
- 32 ビット ODI ドライバー (IBMC.LAN)、各種サポート付き

NDIS3 ドライバー IBMC.SYS を導入するときは、この章で説明する手順を使用してください。

NDIS4 の導入手順については、IBM CD-ROM またはディスク上の README.TXT ファイルを参照してください。

Windows 95 で 32 ビット ODI クライアント・ドライバーを使用する必要がある環境の場合は、IBM Windows ヘルプ・ファイル HELPDOCS.HLP をご覧ください。

ソフトウェア導入ディスクットの作成方法

IBM CD-ROM の代わりに、導入に使用する 1 組のディスクットを作成する場合は、IBM CD-ROM から **MAKEDISK.BAT** を実行して、必要な導入ファイルを 2 枚のブランク・ディスクットにコピーしてください。

Windows 95 および Windows 98 への導入

1. Windows を起動した状態で、EtherJet CardBus アダプターを CardBus PC カード・スロットに挿入し、1ページの『第1章 ハードウェアの導入』に示したように、ケーブルを接続します。
2. **プラグ・アンド・プレイ導入 (バージョン 950b OSR2 以降)**。Windows の画面に「新規ハードウェア検出」ウィンドウが表示されたら、画面の指示に従って導入を完了させてください。それ以上のステップは必要ありません。

「新規ハードウェア検出」画面が表示されない場合は、ステップ 3 に進んでください。

注:

- a. 「新規ハードウェア検出」ウィンドウは表示されたが、EtherJet CardBus アダプターが初期化されなかったり、デバイス・マネージャーの競合が示された場合は、10ページの『Windows 95 および Windows 98 の問題判別』を参照してください。
 - b. 東芝製の携帯用コンピューターに導入している場合、「新規ハードウェア検出」ウィンドウが表示されないときは、IBM CD-ROM またはディスクットの Windows ヘルプ・ファイル HELPDOCS.HLP の説明を参照してください。
3. **手動による導入 (Windows 95 バージョン 950 または 950a)**。「スタート」をクリックし、「設定」を選択して、「コントロール・パネル」をクリックします。
 4. 「コントロール・パネル」で「ネットワーク」をダブルクリックします。
 5. 「ネットワーク」ウィンドウの「ネットワークの設定」タブで「追加」をクリックします。
 6. 「ネットワーク構成ファイルの追加」ウィンドウで「アダプター」をダブルクリックします。
 7. 「ネットワーク・アダプターの選択」ウィンドウで「ディスク使用」をクリックします。
 8. IBM CD-ROM を挿入します。
 9. 入力ボックスで *path*¥ を選択し (*path*¥ は、IBM CD-ROM またはディスクットが入っているドライブ)、「OK」をクリックします。
 10. 「IBM 10/100 EtherJet CardBus Adapter Manual Load」を選択して「OK」をクリックします。

ネットワークのプロパティのリソースの表示で、種々の設定値が表示されます。フィールドに付けられたアスタリスク (*) は、現在の設定値が正しくないことを示しています。上下の矢印を使って、アスタリスクが消えるまで設定値を調整してください。

11. 「ネットワーク」ウィンドウで「OK」をクリックします。
12. 「OK」をクリックします。ファイルをコピーするウィンドウが開きます。
13. オリジナルの Windows 95 または Windows 98 CD-ROM あるいはディスクレットを挿入し (CD-ROM またはディスクレットが入っているドライブを指定してください)、 「OK」をクリックします。「システム設定」ウィンドウが開きます。

注: Windows 95 がプリインストールされている場合、必要なファイルは、次のディレクトリーにあります。

c:\windows\options\cabs

14. コンピューターを再起動するかどうかを尋ねられたら「はい」をクリックします。

注:

- a. 再起動時に Windows 95 の“エラー”のピープ音が聞こえても無視してください。
- b. Windows 95 バージョン 950/950a に関する補足情報は、IBM CD-ROM またはディスクレットの Windows ヘルプ・ファイル HELPDOCS.HLP を参照してください。

Windows 95 および Windows 98 の問題判別

Windows 95 バージョン 950b (OSR2) では、EtherJet CardBus アダプターは検出されますが、初期化されないか、デバイス・マネージャーにエラーが表示されます。

Windows 95 バージョン 950b 以降では、たとえ検出されても（「新しいハードウェアが検出されました」というメッセージによって示されます）、EtherJet CardBus アダプターを手動で導入することが必要になる場合があります。手動での導入方法を、以下で説明します。

Windows 95 バージョン 950b (OSR2) 以降での手動による導入

1. 画面の左下隅の「スタート」ボタンをクリックします。
2. メニュー項目の「設定」を選択します。
3. メニュー項目の「コントロール パネル」を選択します。
4. 「システム」アイコンをダブルクリックします。
5. 「システム プロパティ」ウィンドウで「デバイス マネージャー」タブを表示します。
6. 「デバイス マネージャー」ウィンドウで「PCMCIA ソケット」をクリックします。

「PCMCIA ソケット」の下に 2 つ (ケースによっては異なる場合があります。) の CardBus コントローラーがリストされています。カードバスの“上部”と“下部”と表示の“上部”と“下部”の指定は、システムによって異なることがあります。

- EtherJet CardBus アダプターが上部スロットにあるときは、上部 CardBus コントローラーをクリックして、それを選択します。
 - アダプターが下部スロットにあるときは、下部 CardBus コントローラーをクリックして、それを選択します (アダプターが入っていたスロットをメモしておいてください)。
7. 「プロパティ」をクリックします。このハードウェア・プロファイルの「このハードウェア環境で使用不可にする」のボックスにチェック印を付けます。
 8. 「OK」をクリックします。使用不可にされた CardBus コントローラーの上に赤色の X が表示されます。
 9. 「デバイス・マネージャー」タブの「OK」をクリックします。
 10. Windows の MS-DOS プロンプトを開き、次のファイルを削除します。
 - ¥WINDOWS¥INF¥*.BIN

- %WINDOVS%INF%\$X*.INF
 - %WINDOVS%SYSTEM%IBMC.SYS
11. ファイル CONFIG.SYS と AUTOEXEC.BAT の名前を変更して、Windows 95 OSR2 が 32 ビット・プロテクト・モードで実行されることを保証します。
Windows 95 OSR2 は、リアル・モードのドライバーとプロテクト・モードのドライバーを同時に使用することはサポートしません。この組み合わせは、予測不能の結果をもたらす原因になります。2 種類のドライバーを混ぜて使用すると、コンピューターが停止したり、ネットワークが機能しないことがあります。AUTOEXEC.BAT と CONFIG.SYS の名前変更には、MS-DOS プロンプトから次のコマンドを使用します。
 - REN C:%AUTOEXEC.BAT C:%AUTOEXEC.X0X
 - REN C:%CONFIG.SYS C:%CONFIG.X0X
 12. Windows 95 OSR2 を終了し、システムの電源を切ります。EtherJet CardBus アダプターを PC カード・スロットから取り出します (アダプターが入っていた PC カード・スロットが上部か下部かをメモしておいてください)。
 13. Windows 95 OSR2 を再始動します。ディスク・ドライブの活動がすべて停止したら、ステップ 12 で取り外した PC カード・スロットに、アダプターを再び挿入します。
 14. 「スタート」をクリックし、「設定」を選択して、「コントロール パネル」を選択します。「ハードウェア」をダブルクリックします。次のように尋ねられたら、

「新しいハードウェアを自動的に検出しますか？」

「いいえ」を選択して「次へ」をクリックします。
 15. 「ネットワーク アダプター」を選択して「次へ」をクリックします。「メーカー名」で「IBM」を選択し、「ディスク使用」ボタンをクリックします。
 16. IBM CD-ROM またはデバイス・ドライバーディスクセットを挿入し、入力ボックスで *path%* を選択します (*path%*は、IBM CD-ROM またはディスクセットが入っているドライブです)。「OK」をクリックします。
 17. 「**IBM 10/100 Etherjet CardBus Adapter manual load**」を選択して「OK」をクリックします。もう一度「OK」をクリックし、「次へ」、「完了」をクリックします。
PC カード (PCMCIA) ウィザードが表示されます。Windows 95 OSR2 CAB ファイルのコピーが、すでにシステム上にあることが必要です。
 18. Windows の状態により、次のように尋ねられたら、

PC カードを Windows のインストールに使っていますか？

「いいえ」を選択します。

19. 次のように尋ねられたら、

システムファイルを確認して...？

「いいえ」を選択します。「次へ」をクリックして「完了」をクリックします。

20. コンピューターを遮断するために「はい」を選択します。

Windows 95 OSR2 は、「デバイス・マネージャー」と「ネットワーク」コンポーネントのもとに、IBM アダプターを追加します。システムによっては、基本 Microsoft ネットワークをセットアップするために、Windows 95 OSR2 ディスケットまたは CD-ROM の挿入を求めるプロンプトが出ることがあります。

Windows 95 OSR2 には、次のネットワーク用の 32 ビット・クライアントが組み込まれています。

1. Microsoft ネットワーク
2. Netware ネットワーク

32 ビット ODI ドライバーの導入方法は、IBM CD-ROM の Windows ヘルプ・ファイル HELPDOCS.HLP を参照してください。

Windows 95/98 ドライバー・パラメーター

IBMC.SYS (NDIS3) and IBMCN4.SYS (NDIS4) ドライバーの設定値

IBMC.SYS は NDIS3 ドライバーです。IBMCN4.SYS は NDIS4 ドライバーです。両方とも Microsoft ネットワーク・ドライバー・インターフェース仕様 (NDIS) に準拠しています。

Windows で IBMC.SYS を使用するために必要なファイルは、次のとおりです。

NETIBMC.INF

Windows 用の導入ファイル

IBMC.SYS

Windows 用の NDIS3 ドライバー

Windows に組み込まれている「ネットワーク・コントロール・パネル」使用すると、IBMC.SYS および IBMCN4.SYS ドライバーのユーザー設定可能パラメータ

ーを変更できます。このアプレットは、ユーザーにパラメーターの選択値を尋ねて、対応するパラメーターをレジストリーに設定します。ユーザーが設定可能なパラメーターは、次のとおりです。

パラメーター	省略時値	有効値	標準値
DirectEnable	AutoDetect	AutoDetect	0
		ON	2
		OFF	1
EarlyTransmit	ON	OFF	0
		ON	1
InterruptStyle	0	AutoDetect	0
		PCI-IRQ	1
		ISA-IRQ	2
LineSpeed	Auto	AutoDetect	0
		10 Mbps	1
		100 Mbps	2
LineMode	0	AutoDetect	0
		Half-Duplex	1
		Full-Duplex	2
Network Address		ネットワーク管理者の方 は、下記の注を参照。	
Socket	0	AutoDetect	0
		1、2、3、4	0、1、2、3、4
CableDetect	ON	On	1
		Off	0

ネットワーク管理者の方へ:

ネットワーク管理者の方へ: ネットワーク・ノード・アドレスは、Network Address の値を 0080C7112233 のように指定することによって変更できます。ユーザーがネットワーク・アドレスを指定しない場合、IBMC.SYS ドライバーは EtherJet CardBus アダプターが持っている MAC アドレスを使用します。

注: 上記のキーワードの定義は、23ページの『第4章 診断および問題判別』を参照してください。

第3章 Windows NT への導入

EtherJet CardBus アダプターは、Microsoft Windows NT 3.51 および NT 4.0 環境での手動による導入をサポートします。Windows NT は、CardBus アダプターのプラグ・アンド・プレイ導入やホット・スワップを直接はサポートしませんが、他社製のカード・サービス / ソケット・サービス・ソフトウェアを通じてサポートされる場合があります。

EtherJet CardBus アダプターを導入した場合、他方の PC カード・スロットは、別の PC カードに利用できます。

使用するドライバー

Windows NT 用の次のドライバーが IBM CD-ROM またはディスケットで提供されます。

- IBMC.SYS - NDIS3 ドライバー
- IBMCNT.SYS - カード・サービス / ソケット・サービス・ドライバー
- IBMCN4.SYS - NDIS4 ドライバー

この章では、NDIS3 ドライバー IBMC.SYS および IBMCNT.SYS ドライバーについて説明します。NDIS4 の導入手順については、IBM CD-ROM またはディスケットの README.TXT ファイルを参照してください。

注: Windows NT 4.0 に EtherJet CardBus アダプターを導入する前に、
README ファイルをお読みになるか、次の Web サイト (US) をご覧ください。

<http://www.networking.ibm.com/support/ejetcardbus>

カード・サービス / ソケット・サービス・ソフトウェア

一部の Windows NT 4.0 システムには、PC カードの導入を容易にし、ホット・スワップをサポートするために設計された、他社製のカード・サービス / ソケット・サービス・ソフトウェアが組み込まれています。IBM は、標準 NDIS3 および NDIS4 ドライバーの他に、特定のカード・サービス / ソケット・サービス・ソフトウェアに対する追加のサポートを提供する IBMCNT.SYS を開発しました。

EtherJet CardBus アダプターは、次の Windows NT 4.0 カード・サービス / ソケット・サービス・ソフトウェアをサポートします。

- **Phoenix Technologies の CardExecutive for NT 4.0**

Phoenix CardExecutive に対するサポートは、特別なカード・サービス / ソケット・サービス・ドライバ IBMNT.SYS によって提供されます。

- **Award Software の CardWare for Windows NT 4.0**

Award CardWare の使用方法については、README.TXT ファイルを参照してください。

- **SystemSoft Corporation の CardWizard for NT 4.0**

SystemSoft CardWizard に対するサポートは、NDIS3 ドライバ IBMNT.SYS で提供されます。

- **Softex Incorporated の PC Card Controller for NT**

Softex PC Card Controller for NT は、Phoenix CardExecutive と同様の機能を提供します。Softex を使用する場合は、Phoenix CardExecutive の手順に従ってください。

どのドライバーを使用するか

次の説明を参考にして、ユーザーの環境で使用するドライバーを決めてください。

- **IBMNT.SYS**

カードおよびソケット・サービスのない NT 3.51 および 4.0、ならびに SystemSoft CardWizard for NT 4.0 を備えた NT 4.0 で使用します。

- **IBMNT.SYS**

Phoenix CardExecutive および Softex PC Card Controller for NT を備えた NT 4.0 で使用します。

- **IBMNT4.SYS**

README.TXT ファイルを参照してください。

NT 4.0 への導入

コンピューターの電源を切った状態で EtherJet CardBus アダプターを CardBus PC カード・スロットに挿入します。そしてコンピューターの電源を入れます。

1. **アダプターが検出された場合:** EtherJet CardBus アダプターが検出された場合は、17ページの『カード・サービス / ソケット・サービスを使用して NT 4.0 に導入する場合』のセクションに進んでください。

2. **アダプターが検出されない場合:** EtherJet CardBus アダプターが検出されない場合は、『カード・サービス / ソケット・サービスのない NT 4.0 に導入する場合』に進んでください。

カード・サービス / ソケット・サービスを使用して NT 4.0 に導入する場合

1. カード・サービス・ソフトウェアがアダプターを検出したら、カード・サービス / ソケット・サービス・ソフトウェアの画面の指示に従って導入してください。

注: たいていの場合、省略時の設定で CardBus は正常に動作しますが、IBM CD-ROM 上の README.TXT ファイルで、最新の推奨事項を確認してください。

2. カード・サービス・ソフトウェアによって EtherJet CardBus アダプター用のドライバーの選択が異なりますので、次のガイドラインに従ってドライバーを導入してください。最新の Windows 95、98、および NT ネットワーク・ドライバーを使用していることを確認するには、IBM Web サイトをご覧ください。

- **SystemSoft CardWizard** カード・サービス・ソフトウェアは、アダプターを挿入すると、タスクバーに CardWizard アイコンを表示します。IBM CD-ROM のルート・ディレクトリーにある **IBM.CSYS** ドライバーを導入してください。
- **Phoenix CardExecutive** および **Softex PC Card Controller** は、IBM CD-ROM の ¥IBMCNT ディレクトリーにある **IBMCNT.SYS** ドライバーを使用します。カード・サービス・ソフトウェアがドライバー・ディスケットを要求したら、¥path¥IBMCNT と入力してください (path¥ は、IBM CD-ROM が入っているドライブです)。
- **Award CardWare** の説明は、**README.TXT** ファイルにあります。

カード・サービス / ソケット・サービスのない NT 4.0 に導入する場合

導入時に EtherJet CardBus アダプター が検出されなかった場合 (カード・サービス / ソケット・サービス・ソフトウェアが使われていないことを示しています)、次の手順を使用してください。

1. EtherJet CardBus アダプターを PC カード・スロットに入れて、「スタート」、「設定」の順にクリックし、「コントロール・パネル」を選択します。「コントロール・パネル」がオープンします。
2. 「ネットワーク」アイコンをダブルクリックします。「ネットワーク設定」ウィンドウがオープンします。(Windows の状態によっては、「今すぐ

インストールしますか?」と問が出ますが、その場合「いいえ」を選びインストールを中止してネットワーク管理者に連絡してください。)

3. 「**アダプター**」タブをクリックします。「ネットワークアダプター」ウィンドウがオープンします。
4. 「**追加**」をクリックします。「ネットワークアダプターの選択」ウィンドウがオープンします。
5. 「**ディスク使用**」をクリックし、IBM CD-ROM またはドライバーディスクを挿入して、パスを入力します。
6. 「**OK**」をクリックします。「OEM オプション」ウィンドウがオープンします。
7. 「**OK**」をクリックします。「Windows NT セットアップ」ウィンドウが、短い時間表示されます。
8. 「EtherJet CardBus アダプター設定」ウィンドウがオープンし、省略時の設定が表示されます。

注: たいていの場合、省略時の設定で CardBus は正常に動作しますが、IBM CD-ROM 上の README.TXT ファイルで、最新の推奨事項を確認してください。

9. 「**OK**」をクリックします。「ネットワーク設定」ウィンドウが再表示されます。
10. 「**閉じる**」をクリックします。ネットワーク・プロトコルのセットアップに関連したダイアログ・ボックスが表示された場合は、「**取消**」をクリックして、ネットワーク管理者に連絡してください。
11. 「ネットワーク設定の変更」ウィンドウがオープンしたら、「**はい**」をクリックして、コンピューターを再起動します。

NT 3.51 への導入

1. EtherJet CardBus アダプターを挿入します。
2. 「**コントロール パネル**」をダブルクリックします。「コントロール パネル」がオープンします。
3. 「**ネットワーク**」アイコンをダブルクリックします。「ネットワーク設定」がオープンします。
4. 「**アダプターカードの追加**」をクリックします。「ネットワーク アダプターの追加」ウィンドウがオープンします。
5. スクロールして「**その他**」を選択します (IBM CD-ROM が必要です)。
6. 「**続行**」を選択します。「ディスク挿入」ウィンドウがオープンします。

7. IBM CD-ROM を挿入します。
8. 「OK」をクリックします。「OEM オプションの選択」ウィンドウがオープンします。
9. 「OK」をクリックします。
10. 「EtherJet CardBus アダプター 設定」ウィンドウがオープンし、省略時の設定が表示されます。
11. 「OK」をクリックします。「ネットワーク設定」ウィンドウが再びオープンします。
12. 「OK」をクリックします。「ネットワーク設定の変更」ウィンドウがオープンします。
13. 「いま再起動する」をクリックして、コンピューターを再起動します。

NT 3.51 からの CardBus アダプターの除去

1. 「コントロール・パネル」をダブルクリックします。「コントロール・パネル」がオープンします。
2. 「ネットワーク」アイコンをダブルクリックします。「ネットワーク設定」がオープンします。
3. 「IBM 10/100 Etherjet CardBus Adapter」を選択します。
4. 「削除」を選択します。
5. 「OK」をクリックして確認します。

Windows NT ドライバー・パラメーター

IBMC.SYS、IBMCNT.SYS、および IBM CN4.SYS ドライバー・パラメーターは、「NT ネットワーク・コントロール・パネル」を使用して変更できます。このアプレットは、OEMSETNT.INF ファイルを使用して、対応するパラメーターをレジストリーに設定します。

注: 下記のキーワードの定義は、23ページの『第4章 診断および問題判別』の「キーワード一覧」のセクションを参照してください。

パラメーター	省略時値	有効値	レジストリー値
DirectEnable	0	AutoDetect	0
		OFF	1
		ON	2

パラメーター	省略時値	有効値	レジストリー値
EarlyTransmit	0	OFF	0
		ON	1
InterruptNumber	11	3-15	左に同じ
InterruptStyle	0	AutoDetect	0
		PCI IRQ	1
		ISA IRQ	2
IOBaseAddress	0xF800	0x1000-0xF800	左に同じ
LineSpeed	0	AutoDetect	0
		10 Mbps	1
		100 Mbps	2
LineMode	0	AutoDetect	0
		Half-Duplex	1
		Full-Duplex	2
LinkIntegrity	1	OFF	0
		ON	1
MemoryMapped BaseAddress	5B80000	0xC0000-B000C000	左に同じ
Socket	0	AutoDetect	0
		1	1
		2	2
		3	3
CableDetect	On	OFF	0
		ON	1

ネットワーク管理者の方へ

注: ネットワーク・ノード・アドレスは、手動で変更できます。

1. 「スタート」から「ファイルの名前を指定して実行」を選択し、**regedit** と入力して **Return** を押します。

2. 「**HKEY_LOCAL_MACHINE**」 「**System**」 「**CurrentControlSet**」 「**Service**」 「**IBMC**」 の順に選択します。
3. 「**編集**」メニューをクリックし、「**新規作成**」を選択して「**バイナリ**」を選択します。
4. 新しい値の「**NetworkAddress**」(スペースを含めず、大文字小文字を区別します。)に名前変更して **Enter** を押します。
5. 「**NetworkAddress**」をダブルクリックし、“値のデータ”ボックスに 12 桁のアドレス (スペースを含めない) を入力して「**OK**」をクリックします。

第4章 診断および問題判別

この章には、EtherJet CardBus アダプターの診断および問題判別に関する補足情報が収められています。ユーザーの稼働環境に特有の問題判別情報は、該当する環境の導入の章を参照してください。この補足情報は、EtherJet CardBus アダプターとその使用説明書をよく理解しているユーザーやネットワーク管理者が、該当する稼働環境での導入や問題判別手順を完了した後も問題を解決できない場合のために提供するものです。

注: 問題判別に関する追加情報は、IBM CD-ROM またはディスク上の Windows ヘルプ・ファイル HELPDOCS.HLP を参照してください。

この章には、次のトピックが含まれています。

- LED インディケータ
- 診断テスト
- 問題判別チェックリスト
- キーワード一覧 (すべてのドライバー)

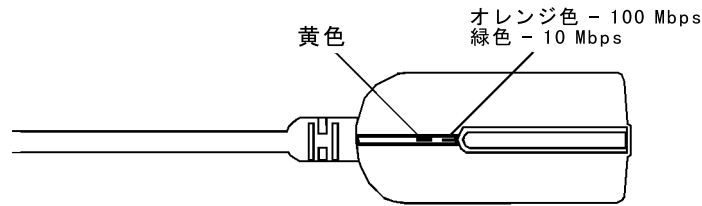
追加の情報源

必要に応じて、ご使用のコンピューターやネットワークの資料を参照してください。EtherJet CardBus アダプターに関する最新の技術情報は、IBM CD-ROM またはディスク上の **README.TXT** ファイルをご覧ください。

IBM サポート・サービスのアクセス情報については、33ページの『付録A. 製品サポート・サービス』を参照してください。

LED インディケータ

EtherJet CardBus アダプターのメディア・モジュール上の LED インディケータは、次の条件を満たしているときに動作します: (1) カードが PC カード・スロットに挿入されている、(2) ネットワークに接続されている、(3) コンピューターの電源がオンになっている、(4) ネットワーク・ドライバーがロードされている。



診断自己テスト

IBM は、DOS 用と Windows 用の自己テスト診断プログラムを提供しています。プログラムは、EtherJet CardBus アダプターのいくつかの機能をテストし、テストの結果、装置の通し番号、およびノード・アドレスを報告します。

プログラム	使用環境	ディスクットの場所
IBMCTEST.EXE	DOS、Win 3.X	IBM CD-ROM
EJETDIAG.EXE	Win 95、98、NT	IBM CD-ROM

注: IBMCTEST は、MS-DOS コマンド行からのみ実行できます。Windows 内の DOS ボックスからは実行できません。

MS-DOS/Windows 3.x 診断プログラム (IBMCTEST.EXE) の実行

自己テストを実行するには、次の手順で行います。

1. 1ページの『第1章 ハードウェアの導入』の説明に従って、EtherJet CardBus アダプターを導入します。
2. コンピューターを遮断し、MS-DOS から再起動します。ネットワーク・ドライバはロードしないでください。

注: ネットワーク・ドライバをロードした状態で IBMCTEST を実行しないでください。IBMCTEST を実行する前にネットワーク・ドライバをロードすると、テスト・ユーティリティを終了するときに、予測不能の結果になることがあります。

3. MS-DOS プロンプトで **IBMCTEST** と入力し、**Enter** を押します。

メイン画面

プログラムは、いくつかの機能ボタンと表示域からなっています。機能ボタンを押すと (機能を呼び出すと)、対応するパネルが表示域に現れます。このパネルは、別の機能を選択するまで表示されたままです。IBMCTEST を終了するには、**x** と入力するか、「Exit」ボタンを押します。

機能が活動状態のときは、ボタンは下がった (押された) ままに見えます。ボタンが浮き出ると、機能は完了しており、スクリーンは受動的な結果画面になります。

9 つの機能を呼び出すには、メイン・パネル上の該当するボタンを押すか、ボタン上の強調表示された文字を入力するか、左マウス・ボタンを使用します。オンライン・ヘルプが用意されています。

注: 参照のために、EtherJet CardBus アダプターのモデルとシリアル番号を書き留めてください。

Windows 95、98、および NT の診断プログラム (EJETDIAG.EXE) の実行

1. EtherJet CardBus アダプターが導入され、ご使用のバージョンの Windows で動作するように構成されていることを確認してください。
2. IBM CD-ROM を挿入します。
3. 「ファイル」、「ファイル名を指定して実行」、「*path*¥EJETDIAG.EXE」を選択します (*path*¥ は、IBM CD-ROM またはディスクが入っているドライブです)。
4. 該当するタブをクリックして、診断プログラムを進めます。完了したら、「OK」をクリックして終了します。

問題判別チェックリスト

- Windows 3.x への導入と問題判別に関する情報は、IBM CD-ROM 上の HELPDOCS.HLP を参照してください。
- IBM CD-ROM 上の README.TXT ファイルを再確認してください。
- ご使用のアダプターの最新ドライバーであることを確認してください。 IBM Web サイトでバージョン番号をチェックできます。
<http://www.networking.ibm.com/support/ejetcardbus>
- ドライバーのロード中、またはテスト・ユーティリティーの実行中は、LAN アダプター・ケーブルを EtherJet CardBus アダプターに接続したままにしてください。
- Novell 環境では、使用している FRAME TYPE がファイル・サーバーのものと同一であることを確認してください。サーバーのフレーム・タイプは、NET.CFG に最初のフレーム・タイプとして指定されているはずですが。
- STP ケーブル環境では、ハブまたはコンセントレーターにプラグを直接接続してみてください。
- 正常な動作が確認されているネットワーク接続部に、プラグを差し込んでみてください。
- 異なるコンピュータで EtherJet CardBus アダプターを使ってみてください。
- 別の IBM アダプター (もしあれば) を試してください。
- コンピューターに複数の PC カード・スロットがある場合は、アダプターを別のソケットに移してみてください。
- IBM アダプターとカードおよびソケット・サービスの競合を防ぐために、カードおよびソケット・サービスをロードせずに、IBM アダプターをテストしてください。カードおよびソケット・サービスの割り込み、メモリー・アドレス、および入出力アドレスは、NET.CFG または PROTOCOL.INI (使用している場合) の IBM 構成と一致していなければなりません。
- IBM 割り込み、メモリー・アドレス、および入出力アドレスが、導入されている他のハードウェア (サウンド・カード、CD-ROM ドライブ、PEN デバイスなど) と競合していないか確認してください。
- CardBus ドライバーを異なるメモリー・アドレス (たとえば、C800、CC00、D400、D800) にロードしてみてください。
- 異なる割り込み位置 (たとえば、9、10、11) を使ってみてください。
- 異なるポート・アドレス (たとえば、280、290、310、320) を使ってみてください。

キーワード一覧 (すべてのドライバー)

注: すべての EtherJet CardBus アダプターのドライバーの構成パラメーターをアルファベット順にリストしています。特定の環境に特有のパラメーターについては、該当するオペレーティング・システムの情報を参照してください。Windows 3.x、IBM OS/2、および 32 ビット ODI については、IBM CD-ROM またはディスク上の HELPDOCS.HLP ファイルを参照してください。

CABLEDETECT ケーブル検出機能をオン / オフにします。オンのとき、ケーブル検出機能は、LAN ケーブルが接続されていないことを検出すると、アダプターを省電力モードにします。

CACHE CardBus ブリッジのシステム・キャッシュ・ライン・サイズを設定します。値はシステムによって異なり、0 (キャッシュ使用不可)、4、8、16、または 32 を指定できます。値を変更すると、ネットワーク・パフォーマンスに影響を与える可能性があります。

DIRECTENABLE (32 ビット NDIS3 ドライバー IBM.C.SYS) EtherJet CardBus アダプターが存在するかどうかをドライバーが判別するときに使う方法を強制的に指定します。有効なパラメーターは AutoDetect、Off、On です。AutoDetect では、ドライバーは CardBus ブリッジがすでに別のイネーブラー (ソケット・サービス / カード・サービスなど) によってセットアップされているかどうかを判別できます。セットアップされている場合、ドライバーは現行構成を使用します。On は、現在の状態を検査せずに、ドライバーが CardBus ブリッジを使用することを強制的に可能とします。

DRIVERNAME=IBM\$ IBM.C.NDIS ドライバーのために、PROTOCOL.INI ファイルの IBM セクションの最初の項目として必要です。

EARLYRECEIVE NOEARLYRX を参照。

EARLYTRANSMIT NOEARLYTX を参照。

ERT Advanced Look-ahead Pipelining (拡張先読みパイプライン) のしきい値を指定します。有効な設定値は LOW、MEDIUM、HIGH です。コンピューター・システムによっては、この値を変更すると、ネットワーク・パフォーマンスに影響を与えることがあります。

INT, INTERRUPTNUMBER IRQ を参照。

INTERRUPTSTYLE (32 ビット NDIS3 ドライバー IBM.CSYS のみ) ドライバーが ISA IRQ ルーティングまたは PCI IRQ ルーティングを使用することを強制します。一部の CardBus ブリッジは、PCI と ISA の両方の IRQ ルーティングをサポートする能力を備えています。有効なパラメーターは AutoDetect、PCI-IRQ、ISA-IRQ です。省略時のキーワードは AutoDetect です。

IOADDRESS、IOBASEADDRESS EtherJet CardBus アダプター入出力ポートの基本入出力アドレスを 16 進表記で指定します。入出力モードで実行する場合、EtherJet CardBus アダプターは 128 の連続した入出力アドレスを必要とします。メモリー・マップ入出力モードを使用する場合は、入出力ポートを指定する必要はありません。このパラメーターが指定されていない場合、ドライバーは自動的に入出力ポートを検出します。

I/O PORT IOADDRESS を参照。

IRQ アダプターのハードウェア割り込みを指定します。CardBus ブリッジ上で PCI 割り込みが使用されている場合、このパラメーターは無視されます (ISAIRQ キーワードがオーバーライドとして使用されていない限り)。このパラメーターが指定されていない場合、ドライバーは自動的に IRQ を検出します。

ISAIRQ このキーワードは、ドライバーに強制的に ISA IRQ ルーティングを使用させます。一部の CardBus ブリッジは、PCI と ISA の両方の IRQ ルーティングをサポートします。このキーワードがオーバーライドとして使われていない場合、ドライバーは自動的にこのオプションの最良の選択肢を判別します。

LATENCY CardBus ブリッジの待ち時間タイマーを指定します。このパラメーターは、EtherJet CardBus アダプターのバス・マスター機能に影響を与えます。このパラメーターを変更すると、システム・パフォーマンスに影響を与えることがあります。範囲は 10 進数の 1 ~ 255 で、省略時値は 32 です。複数の周辺装置 (モデムなど) を使っている場合は、待ち時間を低い値に設定する必要があります。EtherJet CardBus アダプターが、使用されている唯一の周辺装置のときは、高い待ち時間値 (255 など) を使ってください。

LINEMODE (16 ビット DOS ドライバーの場合) ネットワークの半二重モードまたは全二重モードを選択します。有効なパラメーターは AUTO、HALF、FULL です。全二重を選択すると、EtherJet CardBus アダプターが全二重ハブに接続されている場合、データの送受信を同時に行えます。省略時値は AUTO です。

LINEMODE (32 ビット NDIS3 ドライバー IBM.CSYS の場合) ネットワークの半二重または全二重を選択します。有効なパラメーターは AutoDetect、Half

Duplex、Full-Duplex です。全二重を選択すると、EtherJet CardBus アダプターが全二重ハブに接続されている場合、データの送受信を同時に行えます。省略時値は AutoDetect です。

LINESPEED (16 ビット DOS ドライバーの場合) 10 Mbps または 100 Mbps での動作を強制します。このキーワードが指定されていない場合、ライン速度は自動的に検出されます (省略時の設定)。

LINESPEED (32 ビット NDIS3 ドライバー IBM.C.SYS の場合) 10 Mbps または 100 Mbps での動作を強制します。有効なパラメーターは AutoDetect、10 Mbps、100 Mbps です。省略時値は AutoDetect です。

LINKDISABLE 非 IEEE 10BASE-T ネットワーク (StarLAN 10 など) のリンク・インテグリティを無効にします。ドライバーのコマンド行にこのキーワードがない場合、ドライバーは省略時解釈でリンク・インテグリティを ENABLED (有効) に設定します。

MEM, MEMORY MODE MEMORY (メモリー・マップ入出力) が使用されている場合 (MODE を参照)、IBM アダプターのホスト PC メモリーの場所を 16 進表記で指定します。メモリー・ブロックは、ホスト・メモリーの 4 KB を占めます。

MODE IO に設定すると、入出力駆動カードのみをサポートするシステム上のメモリー・マップ・モードに対する要求を無効にします。MEMORY に設定すると、記憶資源と入出力資源を同時に使用できるコンピューターでは、パフォーマンスが高まります。

NETWORKADDRESS 異なるアドレスを指定して、アダプター固有の MAC アドレスをオーバーライドできます。

NOBURST は、EtherJet CardBus アダプター上のバースト方式の読み取りを無効にします。このキーワードを指定すると、アダプターは各読み取りごとにバス・マスター要求を開始することを強制されるので、パフォーマンスに悪影響を与えます。

NOCHECK アダプター資源を確認する機能を無効にします。ドライバーの検出および確認コードが、ロード時の問題の原因になっている場合には、このキーワードを使ってその機能をオフにできます。

NODEADDRESS NETWORKADDRESS を参照。

NOEARLYRX EtherJet CardBus アダプターの Advanced Look-ahead Pipelining (拡張先読みパイプライン) 機能を無効にします。このキーワードは、解明できないネットワーク問題をもつシステムの問題判別に使用できます。このキーワードを使用すると、パフォーマンスに悪影響を与える可能性があります。

NOEARLYTX EtherJet CardBus アダプターの早期転送機能を無効にします。このキーワードは、解明できないネットワーク問題をもつシステムのトラブルシューティングに使用できます。このキーワードを使用すると、パフォーマンスに悪影響を与える可能性があります。

NOLED 省電力のために、LED をオフにします。

NOPREFETCH CardBus ブリッジ上のメモリー・マップ入出力モードのプリフェッチをオフにして、この機能を無効にします。このキーワードを使用すると、パフォーマンスに悪影響を与える可能性があります。

NOWRITEPOST CardBus ブリッジ上の書き込み通知をオフにして、この機能を無効にします。このキーワードを使用すると、パフォーマンスに悪影響を与えることがあります。

PCIIRQ ドライバーが PCI IRQ ルーティングを使用することを強制します。一部の CardBus ブリッジは、PCI と ISA の両方の IRQ ルーティングをサポートする能力を備えています。このキーワードがオーバーライドとして使われていない場合、ドライバーは自動的にこのオプションの最良の選択肢を判別します。

PORT (ODI ドライバー) IOADDRESS を参照。

RXBUFFERSIZE アダプター受信パケット・バッファのサイズを設定します。これは、16 ビット・ドライバーの場合は 1 ~ 30 の範囲、32 ビット ODI ドライバーの場合は 1 ~ 100 の範囲の 10 進数です。1 つのパケットにつき約 1520 バイトが、ドライバーの常駐メモリー・サイズに追加されます。省略時値は 15 パケットです。

SINT (Packet Driver) ソフトウェア割り込みを指定する 60 ~ 80 の範囲の 16 進数です。省略時値は 60 です。

SOCKET (16 ビット DOS ドライバー) CardBus アダプターを挿入するホスト・コンピューター PC カード・スロット番号を識別します。ソケット番号が指定されている場合、指定されたソケットだけを検査して、IBM アダプターを探します。ソケットが指定されていない場合、IBM アダプターが見つかるまで、すべてのソケットを探索します。

SOCKET (32 ビット NDIS3 ドライバー IBM.C.SYS) EtherJet CardBus アダプターを挿入するホスト・コンピューターの PC カード・スロットまたはソケットの番号を識別します。有効なパラメーターは AutoDetect、1、2、3、4 です。ソケット番号が指定されている場合、指定されたソケットだけを検査して、EtherJet CardBus アダプターを探します。省略時のキーワードは AutoDetect で、ドライバーは自動的にすべてのスロットを検査して EtherJet CardBus アダプターを探します。

TXBUFFERSIZE アダプター送信パケット・バッファのサイズを設定します。これは、16 ビット・ドライバーの場合は 1 ～ 10 の範囲、32 ビット ODI ドライバーの場合は 1 ～ 100 の範囲の 10 進数の送信パケット数です。1 つのパケットにつき約 1520 バイトが、ドライバーの常駐メモリー・サイズに追加されます。省略時値は 2 パケットです。

VERBOSE ドライバーのロード時に追加の構成情報を表示します。これには、PCI 上の CardBus コントローラーやホスト・コンピューター上の CardBus ブリッジの情報が含まれます。

付録A. 製品サポート・サービス

ヘルプ・ファイル

IBM CD-ROM またはディスケットに入っている HELPDOCS.HLP ファイルは、EtherJet CardBus アダプターについて詳しい情報を提供します。

次のトピックが含まれています。

- Windows 95、98、および NT
- IBM OS/2 のヘルプ
- 32 ビット ODI のヘルプ
- Windows 3.x のヘルプ
- IBM 製品サポート

IBM 製品サポート

最新ドライバー、関連コード、技術的なヒント、製品情報などを、10/100 EtherJet CardBus アダプターの Web サイトからダウンロードできます (US)。

<http://www.networking.ibm.com/support/ejetcardbus>

他の IBM ネットワーク製品に関する情報は、IBM ネットワーク・ホーム・ページをご覧ください。

<http://www.networking.ibm.com>

日本の場合は下記 URL からサポートに関する最新情報を入手して下さい。

<http://www.jp.ibm.com/support>

付録B. 仕様

一般仕様

モデル: EtherJet CardBus アダプター

ケーブル:

100BASE-TX - 無シールド対より線、カテゴリ 5 (データ用) ケーブル。
10BASE-T - 無シールド対より線 (UTP) カテゴリ 3 以上のケーブル。

コネクタ:

RJ-45

動作距離:

100 m

イーサネットの仕様

イーサネット IEEE 802.3 (10 Mbps の場合)、802.3u (100 Mbps の場合)

タイプ II CardBus PC カード

10/100 Mbps 全二重

サイズ:

86 mm x 54.0 mm x 5.0 mm (アダプター・ケーブルおよびネットワーク接続部を除く)

重量:

24 g

電源要件:

10BASE-T

3.3 V dc、50 mA (アイドル時)、105 mA (活動時)、80 mA (通常)

100BASE-TX

3.3 V dc、125 mA (アイドル時)、135 mA (活動時)、130 mA (通常)

電源管理:

ACPI、CardBus 電源管理仕様、

Magic Packet、および Wake on LAN をサポート。

温度範囲:

稼働時:

0°C ~ 55°C

保管時:

-20°C ~ 65°C

湿度:

最大 95%、結露なし

LED: リンク・インテグリティ、転送アクティビティ

規格: FCC Part 15, Class B

CE Mark (EN55022, Class B, EN50082)

VCCI クラス B

付録C. 特記事項

本書において、日本では発表されていないIBM製品（機械およびプログラム）、プログラミングまたはサービスについて言及または説明する場合があります。しかし、このことは、弊社がこのようなIBM製品、プログラミングまたはサービスを、日本で発表する意図があることを必ずしも示すものではありません。本書で、IBMライセンス・プログラムまたは他のIBM製品に言及している部分があっても、このことは当該プログラムまたは製品のみが使用可能であることを意味するものではありません。これらのプログラムまたは製品に代えて、IBMの知的所有権を侵害することのない機能的に同等な他社のプログラム、製品またはサービスを使用することができます。ただし、IBMによって明示的に指定されたものを除き、これらのプログラムまたは製品に関連する稼働の評価および検証はお客様の責任で行っていただきます。

IBMおよび他社は、本書で説明する主題に関する特許権（特許出願を含む）商標権、または著作権を所有している場合があります。本書は、これらの特許権、商標権、および著作権について、本書で明示されている場合を除き、実施権、使用権等を許諾することを意味するものではありません。実施権、使用権等の許諾については、下記の宛先に、書面にてご照会ください。

〒106-0032 東京都港区六本木3丁目2-31
AP事業所
IBM World Trade Asia Corporation
Intellectual Property Law & Licensing

情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) 表示

電波障害自主規制 届出装置の記述

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

商標

以下の用語は、米国およびその他の国における IBM 社の商標です。

- Etherjet
- HelpCenter
- HelpWare
- IBM
- Operating System/2
- OS/2
- Systems Application Architecture
- ThinkPad
- Wake on LAN

LANDesk[®] は、Intel Corporation の商標または登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT、および Windows 95 は、Microsoft Corporation の商標または登録商標です。

他の会社名、製品名、およびサービス名は、他社の商標またはサービス・マークである場合があります。

索引

日本語、数字、英字、特殊文字の順に配列されています。なお、濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[カ行]

カード・サービス / ソケット・サービス・ソフトウェア 15
各種サポート 7
キーワード一覧 27
機器、必要な 2
ケーブル
 カテゴリー 3
 導入 1
顧客サポート 33

[サ行]

サポート・サービス 33
自己テスト 24
実行、MS-DOS/Windows 3.x 診断プログラム (IBMCTEST.EXE) の 24
実行、Windows 95、98、および NT 診断プログラム (EJETDIAG.EXE) の 25
自動検出、PC カードの 3
自動折衝、速度 1
仕様
 イーサネット 35
 一般 35
商標 38
情報源 23
診断
 概要 23
 自己テスト 24
スロット、PC カード 4

[タ行]

導入 1
特記事項 37

ドライバー、使用可能な
 Windows 95 7
 Windows NT 15
ドライバー・パラメーター
 Windows 95 12
 Windows NT 19
取り付け
 ハードウェア 4

[ナ行]

ネットワーク・アドレス 13, 20
ネットワーク・ケーブル 1, 6
ノード・アドレス 29

[ハ行]

ハードウェアの導入 1
パッケージの内容 2
パラメーター、ドライバー 12
必要な機器 2
プラグ・アンド・プレイ 7

[マ行]

問題判別
 概要 23
 チェックリスト 26

C

CACHE 27
CardBus 規格 4
CardExecutive for NT 16
CardWare for NT 16
CardWizard for NT 16

D

DIRECTENABLE 27
DRIVERNAME 27

I

IBM 導入ディスク 1
IOADDRESS 28
IOBASEADDRESS 28
IRQ 28

L

LAN アダプター・ケーブル
 接続 5
LATENCY 28
LED 表示 36
LINEMODE 28
LINESPEED 29

M

MEMORY 29
MODE 29

N

NDIS ドライバー
 パラメーター 12
 NDIS3 ドライバー 12, 19
 NDIS4 ドライバー 12, 19
 Windows 95 7
 Windows NT 15
NETWORKADDRESS 29

P

PC Card Controller for NT 16
PC カード・スロット 4
PORT 30

R

RJ-45 コネクタ 2, 3

U

UTP 3

V

VERBOSE 31

W

Windows 95

- 手動による導入 8
- 導入 7
- ドライバー・パラメーター 12
- バージョン 950/950a 8
- 問題判別 10
- OSR2 (V 950b) 10

Windows NT

- アダプターの除去 19
- カード・サービスとソケット・サービス 15
- 導入 15
- ドライバー 16
- ドライバー・パラメーター 19
- ネットワーク・アドレス 20
- CardExecutive 16
- CardWare 16
- CardWizard 16
- PC Card Controller 16



Printed in Japan

SA88-7036-00



日本アイビーエム株式会社
〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12